

県央支部

支部長：大島淳二

□地 域：厚木市、大和市、綾瀬市、
海老名市、座間市、愛甲郡

②会員数：228名

③支部長：大島淳二

④名 所：県央地区の西から見ていきますと、清川村の「丹沢山」「宮ヶ瀬ダム」愛川町の「ソーラーパーク」県内では少なくなった「里山」厚木市の西に「大山阿夫利神社」「飯山観音」「飯山温泉」、そして中津川周辺にはゴルフ場が6カ所、中央部の海老名市は「相模国分寺址・七重の塔の址」そして近年は「シネマコンプレックス」が全国に先駆けて設けられた。又東名と中央道をつなぐ圏央道が来年度に完成する。座間市は「ひまわり」が有名になり、5月の「大風揚げ」はスゴイのひと言、綾瀬市はその面積の18%を基地に占められているが「スポーツ施設」が多い、大和市は「水」が良く「泉の森」があり「ふれあいの森」がある。良い水は良いお酒を生んだ。

ごく最近のニュースで「相模川の屋形船」が復活、とでていたのは今後の観光名所になるかもしれない。

《P R》

1252mの大山を西の目印とし、また、愛川町の宮ヶ瀬ダムから流れる小鮎川と中津川、そして相模湖を水源とする相模川、これら三川は歴史上重要な意味を持ち、その川沿いに出来た肥沃な農地を抱えた小高い丘に「相模国分寺」が出来たのは必然だった。その名残は海老名駅の目の前に広がる田んぼと商業施設かもしれない。

県央の東に位置する大和市は駅前で「骨董市」を定期的に開くなど特徴のある街に発展して来た。

又、身近な林にはまだまだカブトムシやクワガタが多く見つけられる環境が残っている。

